

2018 年度琉球大学大学院人文社会科学研究科
比較地域文化専攻（博士後期課程）

国費外国人留学生（研究留学生）の優先配置を行う特別プログラム
「国際的沖縄研究者養成プログラム」学生募集要項

出願締切日	平成29年9月1日（金）
合格者発表	第一次選抜：平成29年9月27日（水） 第二次選抜：平成29年10月27日（金）
入学期日	平成30年4月1日（日）

国立大学法人 琉 球 大 学



大学院 人文社会科学研究科

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

TEL 098-895-8184

FAX 098-895-8187

**2018年度琉球大学大学院人文社会科学研究科
比較地域文化専攻（博士後期課程）
国費外国人留学生（研究留学生）の優先配置を行う特別プログラム
「国際的沖縄研究者養成プログラム」学生募集要項**

琉球大学大学院人文社会科学研究科比較地域文化専攻（博士後期課程）は、『特別枠による国費外国人留学生』を下記により募集します。

1. プログラムの概要

「国際的沖縄研究者養成プログラム」は、海外において沖縄研究を牽引し、研究の裾野を広げ、沖縄研究の国際的なネットワークを構築する人材を育成する博士後期課程プログラムです。900キロに及ぶ広い海域に点在する琉球列島の多様な文化と社会の研究、日本、中国、台湾、韓国の東アジア地域との交流の歴史研究、東アジアにおける国際関係論等々、比較地域文化専攻教員の教育・研究実績を活用した教育を行います。

本プログラムでは、琉球・沖縄研究、日本研究で修士号を取得した留学生を対象に博士課程後期での教育を実施し、博士号を取得後、母国の大学等の研究機関において人文科学・社会科学の分野で主導的役割を担い、沖縄研究、日本研究を遂行する人材を養成します。

「教育研究分野の対象」は、人文科学・社会科学、特に、琉球列島の民俗、文学、歴史、言語、社会、国際関係などとし、琉球列島の文化、歴史、社会を対象にした次の分野で、比較地域文化専攻教員の教育・研究の実績を活用できる教育研究分野を対象とします。

(1) 教育研究分野

- ① 多様な文化を対象にした民俗学、文学、芸能論、言語学、社会学
- ② 琉球王国期から現代までの複雑な歴史を辿った歴史研究
- ③ 日本文化、日本社会、日本語との比較研究、日本における沖縄の位置づけの研究
- ④ 中国、台湾、韓国、東南アジア地域との交流の歴史研究
- ⑤ 戦後の米軍支配に始まる東アジアにおける沖縄を巡る国際関係論
- ⑥ 沖縄と周辺諸国との比較研究

本プログラムでは、将来、母国の大学や公的研究機関等で研究者となることを目指す留学生を積極的に受け入れます。沖縄研究に特化するだけでなく、沖縄研究を通して、日本文化や日本語についての知見を深め、日本の多様な姿を学び、琉球・沖縄研究が“複数の日本”、“多様な日本”を研究するうえで大きな貢献をなすことをアピールし、幅のある日本研究を推進できる研究者を養成します。

(2) 本プログラムの主たる対象国・地域

ロシア、ポーランド・オーストリアなどの中欧・東欧諸国、および、ブラジル、アルゼンチン、ペルーなどの南米諸国です。

2. 募集人員

博士後期課程（比較地域文化専攻） 3名（国費外国人留学生）

3. 出願資格

- (1) 国籍等 : 日本国籍を有しない者で、外国人留学生として新たに海外から留学する優秀な者。
(2) 年齢 : 1983年4月2日以降に出生した者（2018年4月1日現在で35歳未満の者）
(3) 学歴 : 次の各号のいずれかに該当する者

- ① 修士の学位または専門職学位を有する者もしくは2018年3月までに学位を授与される見込みの者。（1年次修了者も含む。）
② 外国において、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者もしくは2018年3月までに学位を授与される見込みの者。
③ 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同程度以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者。（見込みの者を含む。）

※③により出願する者は、『4. 出願資格の認定について』の出願資格の事前審査申請を行ってください。

- (4) 健康 : 心身ともに大学院における学業に支障のないこと。
(5) 渡日時期 : 2018年4月1日から4月7日までに渡日できる者
(6) その他 : 次に掲げるものについては、対象外とします。採用以降に判明した場合には辞退してください。

- ① 現役軍人または軍属の資格の者
② 指定する期日に渡日できない者
③ 過去に国費外国人留学生であった者については、終了後採用時まで3年以上の教育研究の経歴がない者。ただし、帰国後、在籍大学を卒業した日本語・日本文化研修留学生、日韓共同理工系学部留学生およびヤング・リーダーズ・プログラム留学生が研究留学生として応募する場合はこの限りではありません。
④ 日本政府（文部科学省）以外の機関（自国政府機関を含む）から奨学金等を受給する者。
⑤ 本奨学金における他大学との重複申請、日本政府（文部科学省）および（独）日本学生支援機構が実施する留学生を対象とした支援制度を併給する者
⑥ 2018年度4月期開始前から日本在住（または在住予定）の者。（2018年度に私費外国人留学生として本邦大学に在籍予定であり、4月期の学期も継続して在籍予定の者など。）

4. 出願資格の認定について

『3. 出願資格(3)の③』に該当する者は、出願資格の事前審査を行うので、出願に先立って、以下の書類を2017年7月28日（金）までに『6. 出願手続(3)』の出願書類提出先に送付してください。

- 1) 入学申請書（7. 出願書類等の①に該当）
2) 入学資格個別審査申請書（本学所定の用紙）（7. 出願書類等の③に該当）
3) 出願理由書（本学所定の用紙）（7. 出願書類等の②に該当）
4) 最終学校の成績証明書（7. 出願書類等の⑫に該当）
5) 最終学校の卒業（修了）証明書または在籍証明書（7. 出願書類等の⑩に該当）
6) 研究業績報告書（本学所定の用紙に、著書、学術論文、研究報告書、卒業論文等の業績の概要をまとめたもの。原著、論文抜刷またはそのコピーを添付すること。）
（7. 出願書類等の④に該当）
7) 研究経過報告書（本学所定の用紙に、学校等卒業＜修了＞後の調査研究状況を詳細に記入したもの。）（7. 出願書類等の⑤に該当）

5. 奨学金等

本入試の合格者は、「大学推薦による国費外国人留学生」として文部科学省に推薦されます。

(1) 奨学金 : 2017年度月額：145,000円(変更の可能性あり)

奨学金支給期間 : 渡日後、大学院人文社会科学研究科比較地域文化専攻(博士後期課程)が開始する2018年4月から修了するまでの期間(3年間)とします。

ただし、休学または長期欠席をした場合は、奨学金は支給されません。また、次の場合には、奨学金が支給を取り消されることがあります。

- ① 申請書類等に虚偽の記載があることが判明したとき。
- ② 文部科学大臣への誓約事項に違反したとき。
- ③ 日本の法令に違反し、無期又は一年を超える懲役若しくは禁固に処せられたとき。
- ④ 大学において退学等の懲戒処分を受けたとき、あるいは除籍となったとき。
(なお、大学において処分を決定するまでの間、奨学金の支給を止めることもあります。)
- ⑤ 学業成績不良や停学等により標準修業年限内での修了が不可能であることが確定したとき
- ⑥ 入管法別表第一の四に定める「留学」の在留資格が他の在留資格に変更になったとき。
- ⑦ 他の奨学金(使途が研究費として特定されているものを除く。)の支給を受けたとき。
- ⑧ 採用後、定められた奨学金支給期間延長の承認を受けずに上位の課程に進学したとき。
- ⑨ 当該大学を退学したとき又は他の大学院に転学したとき。

(2) 旅 費

- ① 渡日旅費: 留学生の居住地最寄りの国際空港から日本の国際空港までのエコノミークラスの航空券を交付します。なお、日本の国際空港から琉球大学までの旅費、渡日する留学生の居住地から最寄りの国際空港までの旅費空港税等、日本国内の旅費等は留学生の自己負担とします。
(「留学生の居住地」は原則として申請書に記載された現住所とします。)

また、国籍国以外からの航空券は支給しません。

- ② 帰国旅費: 奨学金支給期間終了月内に帰国する留学生については、本人の申請に基づき、日本の国際空港から当該留学生が帰着する場所の最寄りの国際空港までのエコノミークラスの航空券を支給します。

(注) 渡日および帰国旅行の際の保険金は、留学生の自己負担とします。また、出発および到着空港は留学生が国籍を有する国の空港に限ります。

(3) 授業料等

本プログラムによって入学が認められた留学生は、検定料、入学料および修了までの3年間の授業料は徴収しません。

(4) 宿舎について

本プログラムによって入学が認められた留学生は、琉球大学学生寮に優先的に入居することができます。(但し、入寮期間は原則1年間とする。)

6. 出願手続

(1) 出願締切日 : 2017年9月1日(金)

- (2) 出願方法 : 出願書類を『書留速達』で上記出願締切日までに郵送してください。
※郵送直後、下記(3)のEメールアドレスに郵送した旨を連絡してください。

(3) 出願書類提出先 :

琉球大学法文学部・観光産業科学部学務担当
☎ 903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
電 話 : 098-895-8188 F A X : 098-895-8187
E-MAIL : hbgakmu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

7. 出願書類等

出願書類等	適 要
① 入学申請書	「日本政府（文部科学省）奨学金留学生申請書」（両面印刷） ※（3）出願書類提出先へ電子データで送付すること。
② 出願理由書	「本学所定の用紙」に「出願理由」および「研究概要」を記入したもの
③ 入学資格個別審査申請書	「本学所定の用紙」に必要事項を記入したもの （2ページ 3. 出願資格（3）の③により出願する者のみ提出）
④ 研究業績報告書	「本学所定の用紙」に、著書、学術論文、研究報告書、修士論文等の「業績の概要」をまとめたものについて日本語に訳したもの。
⑤ 研究経過報告書	「本学所定の用紙」に、学校等卒業<修了>後の調査研究状況を詳細に記入したものについて日本語に訳したもの （2ページ 3. 出願資格（3）の③により出願する者のみ提出）
⑥ 「修士論文」または「研究論文」の写し	修士論文は審査段階でも可
⑦ 推薦書 2通	所属大学等の研究科長レベル以上の推薦状（本学学長あてのもの）
⑧ 日本語力調査書	「本学所定の用紙」または「日本語教育担当教員による日本語能力評価書」
⑨ 健康診断書	「本学所定の用紙」により証明
⑩ 旅券（パスポート）の写し	
⑪ 最終出身大学の修了（見込）証明書または学位記	出身大学の学長（研究科長）が作成したもの。 ※日本語の訳文を付けてください。
⑫ 最終出身大学の成績証明書	出身大学の学長（研究科長）が作成し、厳封したもの。 ※日本語の訳文を付けてください。 ※成績評価係数を算出するため、「成績評価基準」（Grading Scale）を表示するまたは、「成績評価基準表」を添付してください。 （次ページ「学業成績審査方法」参考）
⑬ 写真	6か月以内に撮影したもので4.5×3.5 cm, 上半身, 正面, 脱帽。 ※①入学申請書のファイルに電子データで貼付の上、提出する事。
⑭ 受験・修学上の特別措置相談申請書	本学所定の用紙により申請 （6ページ 11. 受験・修学上の特別措置に該当する者のみ提出。）
注 意 事 項	<ol style="list-style-type: none"> これらの書類は、「日本語または英語」いずれかにより、可能な限り文書作成ソフト等を用いて全てA4版両面印刷に統一して作成してください。 （その他の言語により作成する場合は、「日本語による訳文」を必ず添付すること） 提出書類がすべて完全にかつ正確に記載されていない場合、または付属書類が完全に揃っていない場合、提出期限が過ぎたものについては、受理しません。 提出書類は、一切返却しません。 出願後は、いかなる理由があっても出願事項の変更は認めません。

8. 選抜方法

(1) 第一次選抜（書面審査）

書面審査	内 容																																														
修士論文	修士論文等の内容について審査を行う。																																														
日本語力調査書	日本語力調査書等によって日本語力について審査を行う。																																														
研究計画書	研究計画書等の内容について審査を行う。																																														
学業成績審査	<p>※直近2年間の成績評価係数が2.30以上であるかを判定する。 ≪成績評価係数の算出方法≫ 下記の表により「評価ポイント」に換算し、計算式に当てはめて算出。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="5">成績評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4段階評価 (パターン1)</td> <td>—</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>F</td> </tr> <tr> <td>4段階評価 (パターン2)</td> <td>—</td> <td>100～80点</td> <td>79～70点</td> <td>69～60点</td> <td>59点以下</td> </tr> <tr> <td>5段階評価 (パターン3)</td> <td>100～90点</td> <td>89～80点</td> <td>79～70点</td> <td>69～60点</td> <td>59点以下</td> </tr> <tr> <td>5段階評価 (パターン4)</td> <td>S</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>F</td> </tr> <tr> <td>5段階評価 (パターン5)</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>F</td> </tr> <tr> <td>評価ポイント</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>						成績評価					4段階評価 (パターン1)	—	A	B	C	F	4段階評価 (パターン2)	—	100～80点	79～70点	69～60点	59点以下	5段階評価 (パターン3)	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	5段階評価 (パターン4)	S	A	B	C	F	5段階評価 (パターン5)	A	B	C	D	F	評価ポイント	3	3	2	1	0
		成績評価																																													
	4段階評価 (パターン1)	—	A	B	C	F																																									
	4段階評価 (パターン2)	—	100～80点	79～70点	69～60点	59点以下																																									
	5段階評価 (パターン3)	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下																																									
	5段階評価 (パターン4)	S	A	B	C	F																																									
	5段階評価 (パターン5)	A	B	C	D	F																																									
	評価ポイント	3	3	2	1	0																																									
(計算式)																																															
$\frac{(\text{「評価ポイント3の単位数」} \times 3) + (\text{「評価ポイント2の単位数」} \times 2) + (\text{「評価ポイント1の単位数」} \times 1) + (\text{「評価ポイント0の単位数」} \times 0)}{\text{総登録単位数}}$																																															

(2) 第二次選抜（日本語によるインターネット面接審査）

第二次選抜では、スカイプ等を使用した面接審査を行うので、それが可能な環境を準備してください。

修士論文等の内容について口頭で行う。
研究計画書等の内容について口頭で行う。
日本語力について口頭で審査を行う。

◎第二次選抜（日本語によるインターネット面接審査）の日程

2017年10月3日（火）～6日（金）（日本時間）の期間に行う。

具体的な面接日程と時間は、日本との時差を考慮して応募者と調整して決定し、Eメールで通知する。※前日までにスカイプ等の使用を確認するための調整を行う。

9. 合格発表

(1) 第一次選抜（書面審査）の合格発表

日本時間の2017年9月27日（水）16:00にHP（下記URL）で発表するとともに応募者へEメールで通知する。

(2) 第二次選抜（スカイプ等面接審査）の合格発表

日本時間の2017年10月27日（金）16:00にHP（下記URL）で発表するとともに応募者へEメールで通知する。

(3) 文部科学省への推薦

第二次選抜における合格者については、「大学推薦による国費外国人留学生の採用候補者」として文部科学省に推薦され、採用候補者として決定後、該当者へEメールで通知する。

※合格発表 ⇨ 【琉球大学人文社会科学研究所HP】 <http://www.11.u-ryukyu.ac.jp/>

10. 入学期日：2018年4月1日（日）

入学手続きについては、合格者あてに別途通知します。

11. 受験・修学上の特別措置

本研究科に入学を志願する者で、身体に障がいやを有する者、その他疾病・負傷等により受験上または修学上の特別措置を必要とする者は、あらかじめ申し出てください。なお、特別措置の内容によっては対応に時間を要する場合がありますので、できる限り早めに申し出てください。

また、上記申し出に基づき書面による相談が必要となった場合は、以下によってください。

(1) 相談の時期：2017年9月1日（金）まで

(2) 相談の方法：別添様式による「相談申請書」（6. 出願書類等の⑭に該当）を提出することとし、必要な場合は、志願者等に確認等を行ないます。

12. 出願書類提出先及び照会先

琉球大学法文学部・観光産業科学部学務担当

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

電話：098-895-8188 F A X：098-895-8187

E-MAIL：hbgakmu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

1.3. 授業科目及び担当教員一覧

授業担当教員のうち、アンダーラインの教員は、研究指導教員です。

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
比較地域文化総合演習Ⅰ・Ⅱ	各2	幅広い視野に立つ研究を志向するよう促す目的で教員全員が担当して行う演習形式の授業である。1年次の院生すべてが前期に受講する必修科目であり、院生は博士論文作成研究として予定している課題もしくは認識について複数回に分けて報告し、質疑応答を受けると同時に自由討論に参加し、視野を広げる。なお、この授業は他の教員や院生も参加できる開かれたものにする。	全教員
比較地域文化総合演習Ⅲ・Ⅳ	各2	幅広い視野に立つ研究を志向するよう促す目的で教員全員が担当して行う演習形式の授業である。2年次の院生すべてが前期に受講する必修科目であり、院生は博士論文作成研究として進めている課題もしくは認識について複数回に分けて報告し、質疑応答を受けると同時に自由討論に参加し、視野を広げる。なお、この授業は他の教員や院生も参加できる開かれたものにする。	全教員
比較地域文化特別研究Ⅰ	2	比較地域文化総合演習Ⅰ(前期)を履修した1年次の院生が主査および副査の教員(指導教員)、あるいは同学の博士課程後期院生を交えて行う演習形式の授業である。博士論文の構想や先行研究の把握、関連資料の状況、必要なフィールドワーク等について研究計画書をもとに指導助言する。そのために受講者は研究計画書を授業の冒頭で提出する義務があり、また教員の求めに応じて論文構想に関する認識について報告しなければならない。なお、指導教員が必要と認める時は他の教員や博士課程前期院生が出席する。	赤嶺政信 赤嶺 守 池田栄史 石原昌英 稲村 務 我部政明 狩俣繁久 喜納育江 鈴木規之 豊見山和行 星野英一 宮平勝行
比較地域文化特別研究Ⅱ	2	2年次前期の博士論文作成に向けた演習形式の授業である。主査および副査の教員、あるいは同学の博士課程後期院生を交えて行い、指導教員が必要と認める時は他の教員や博士課程前期院生が出席する。研究計画をほぼ決定し、研究に必要な諸資料の検討やフィールドワーク等の展望について指導助言する。受講者は教員の求めに応じて構想や認識について報告しなければならない。	赤嶺政信 赤嶺 守 池田栄史 石原昌英 稲村 務 我部政明 狩俣繁久 喜納育江 鈴木規之 豊見山和行 星野英一 宮平勝行

授業担当教員のうち、アンダーラインの教員は、研究指導教員です。

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
比較地域文化特別研究Ⅲ	2	2年次後期の博士論文作成に向けた演習形式の授業である。主査および副査の教員、あるいは同学の博士課程後期院生を交えて行い、指導教員が必要と認める時は他の教員や博士課程前期院生が出席する。諸資料の検討やフィールドワーク等の達成された成果について受講者に適宜報告を求め、指導助言する。それをもとに受講者は博士論文の具体的な構想をほぼ確定する。	赤嶺政信 赤嶺 守 池田栄史 石原昌英 稲村 務 我部政明 狩俣繁久 喜納育江 鈴木規之 <u>豊見山和行</u> <u>星野英一</u> 宮平勝行
比較地域文化特別研究Ⅳ	2	3年次前期の博士論文作成に向けた演習形式の授業である。主査および副査の教員、あるいは同学の博士課程後期院生を交えて行い、指導教員が必要と認める時は他の教員や博士課程前期院生が出席する。博士論文の構成やその根拠となる諸資料・理論について指導助言する。それをもとに受講者は博士論文作成に向けて最終段階の作業を行い、後期の論文執筆・推敲につなげる。	赤嶺政信 赤嶺 守 池田栄史 石原昌英 稲村 務 我部政明 狩俣繁久 喜納育江 鈴木規之 <u>豊見山和行</u> <u>星野英一</u> 宮平勝行
琉球近世史学特論	2	「近世琉球における百姓の負担体系」を主題とする。近世琉球（1609-1879年）における百姓の負担体系を土地制度と租税制度の両面からアプローチする。まず両者に関する戦前以来の研究史上での諸論点を再検討する。ついで具体的に現在の「地割制」や「仕明地」（開墾地）、「頭懸け」と「夫遣い」（人頭税）等の諸問題を取りあげる。さらに、これらの負担体系を論ずる上で、土地と租税論に関連する近年の歴史人類学などのアプローチ法をも取り入れ、レベルから都市にいたる負担体系を全体的に論及する。	<u>豊見山和行</u>
琉球近世史学演習	2	「近世琉球社会史論」を主題とする。近世琉球（1609-1879年）における首里王府の実施した政策や紛争・裁判等を手がかりに、近世琉球社会の特質を浮き彫りにする。研究史上での論点を整理し、本主題に関係する史料の検討・発表によるゼミ形式とする。主な史料は、首里王府の裁判関係史料（僉議等）および上江洲家文書（久米島）、豊川家文書（石垣島）などの地方文書である。これらの史料を通して、当該期の琉球社会における法的観念や社会的規範の変遷、および王府法と民衆法の齟齬や軋轢などの諸問題を検討・分析する。	<u>豊見山和行</u>

授業担当教員のうち、アンダーラインの教員は、研究指導教員です。

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
琉球考古学特論	2	琉球列島の考古学研究について、研究史を踏まえながらいくつかの課題を選び、従来の研究における資料論および方法論の妥当性を検証することによって、今後の研究の方向性および可能性を探りたい。その方法として、これまでに蓄積された研究書および報告書を材料として取り上げ、これらの作成過程で進められた作業についての具体的復元と確認を行なった上で、これについての問題点を検討する。これらの講義を通じて、受講生それぞれが取り組む研究課題について、複眼的な探究視点を構築するための発想や手掛かりを得られることを意図する。	池田栄史
琉球考古学演習	2	琉球列島の亜熱帯島嶼性と地理的環境に起因する考古学的研究視点の構築を試みる。その方法として、交流・交易論や土器論、集落論などに基づく題材を選ぶ。これによって、琉球列島に固有の考古学的課題とともに、周辺地域との間で行ない得る考古学的比較検討課題の抽出を行なう。授業は発表形式を採用し、受講生の研究課題に沿った発表を前提として、これに対する受講生相互の質議応答を踏まえながら、それぞれの研究認識や研究方法の深化が図れるよう工夫する。	池田栄史
琉球中国関係史特論	2	これまで刊行された中琉関係史に関する評価の高い実証的な研究書や学术论文を講読し、歴史的事象の論理的な理解を深める授業を目指す。進貢、冊封、漂流・漂着、王国の中国化、琉球帰属問題といった課題を通して網羅的に琉球王国の地域の多様性を理解し、地域間ネットワークといった広域的な問題を意識しながら琉球の東アジアにおかれた地域特性を考察する。受講者は指定された研究書や論文を事前に熟読しておかなければならない。	赤嶺 守
琉球中国関係史演習	2	漢文の同時代史料を正確に読み下し、論文執筆をする際に必要となる文書学的な知識を深める授業を目指す。中琉関係史研究を遂行する上で、基本的な重要史料とされる『歴代宝案』、中国第一歴史档案馆（北京）や故宫博物院（台北）及び中央研究院（台北）所蔵の档案史料（内閣題本、宮中硃批奏摺、軍機処録副奏摺、表文、奏文、漢文起居注、移會、片）、執照、符文、咨文、詳文、稟文を輪読し、文書の収発過程や文書用語に関する専門的知識を提供する。	赤嶺 守

授業担当教員のうち、アンダーラインの教員は、研究指導教員です。

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
言語政策特論	2	国内に多言語社会が存在する国においては、中心（多数派）言語と周縁（少数）言語の葛藤、公用語（共通語）の選定・普及、第二言語（外国語）教育等の言語をめぐる様々な問題があり、そのよりよい解決のためには言語政策的な検討及び決定が必要とされる。言語政策として公用語（共通語）の選定・普及も重要な課題であるが、それと同等かそれ以上に重要な課題が少数言語話者の言語権（言語維持、言語教育、民族アイデンティティの確立・維持等）の問題である。この講義では、英文の文献を読みながら言語政策と言語権について学ぶ。	石原昌英
言語政策演習	2	文献を通して、米国（主にカリフォルニア州とハワイ）、及び日本（主に沖縄）等における言語政策と言語権（言語維持、言語教育、民族アイデンティティの確立・維持等）の具体例を検討し、それらを参考にしながら特定のテーマを選定し、研究を深める。また、資料の調査収集と分析方法を学ぶために、沖縄県立公文書館をはじめとする沖縄県内の公的機関において言語政策及び言語権に関する文献や関連する文献を収集し、その内容を分析する。	石原昌英
アジア社会学特論	2	グローバル化の中でのアジア社会の変動を、国際社会的な視点と地域研究的な手法で理論的・実証的に研究する。社会科学としての地域研究にその理論的背景を与えるものとして注目されているのが国際社会学である。ここでは、地域研究と国際社会学について沖縄を含むアジアを事例に必要な理論と実証への応用の方法をまず指導する。そして地域研究と国際社会学を接合させた、比較よりも関係性を重視する世界システム論やエスニシティ論の実証への応用についてさらに深く考察していく。	鈴木規之
アジア社会学演習	2	グローバル化が進行する中で、アジアを分析する理論や方法は大きな転換を迫られている。ここでは、国際社会学の視点から持続可能な発展や内発的発展を含むオルタナティブな開発・発展の理論と実践、開発と市民社会、開発と環境、社会変動とエスニシティ、文化のヘゲモニー（アジアにおけるジャパナイゼーション）などをテーマに、アジア（沖縄も含む）におけるフィールドワークも行いながら具体的なテーマをもって演習形式で検討していく。フィールドワークに際しては、調査デザインや技法についても指導する。	鈴木規之

授業担当教員のうち、アンダーラインの教員は、研究指導教員です。

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
国際関係論特論	2	国際関係論の抱える幅広い領域を理解する方法について、理論的および実証的な基礎的知識を深めることを目的とする。博士前記（修士）課程で学んできた社会科学の分野で多用される分析概念、分析方法、用語など、英語文献を通じてその理解度を深め、その表現方法の習得を可能にする。ここでは、4つの分野—環境、発展、世界経済、紛争と安全保障—を軸にして、それぞれの抱える諸問題を取り上げ、これまでの研究、概念、事例、新たな課題などについて理解していく。	我部政明
国際関係論演習	2	パワーと国家の視点から国際政治のダイナミズムの構造と機能について、理論的、実証的、そしてポスト実証主義的な研究方法を深める。安全保障の多面性—武器の拡散、人権、平和維持活動と平和創出などがテーマとなる。とりわけ、国際システム、主体アクター、構造的パワー、解釈などの研究方法と理解し、東アジア国際環境で生起するさまざまな事例を通じて秩序形成、維持、崩壊の過程を分析する。そして、安全保障と国内政治との接点を通じて、パワーと国家の行動の関係を探ることにする。	我部政明
琉球方言音韻研究特論	2	琉球方言には多様な音韻変化があることが知られている。本講では琉球列島全域約百地点の臨地調査で収集した資料に基づき琉球方言の音韻変化について講義する。閉音節構造を有し7母音体系の奄美諸鈍方言、成節的子音と音節主音的子音を持つ宮古島方言、有声／無声の対立のない大神方言などの特異な音韻体系を有する方言を中心に、狭母音化や母音同化、破裂音の摩擦音化、接近音の破裂音化などの音韻変化を調音音声学的に分析する方法を解説し、変化の要因、変化の条件、他の音韻変化との整合性など、総合的な観点で解明することを講義形式によって学ばせる。	狩俣繁久
琉球方言音韻研究演習	2	琉球方言内の下位方言の比較研究、本土方言との比較研究の方法を習得したうえで、個々の方言を分析するにも隣接する方言への配慮が必要であること、複数地点の音韻変化を比較するにも個々の方言内部の音韻体系への配慮が必要であることを具体例で確認させ、方言研究を深めさせる。消滅に瀕している琉球にとってフィールドワークによって収集した資料が重要な役割を果たすことを具体的に確認し、方言資料の収集と分析能力を培い、高度な知識と多角的な研究視点を持った研究方法を演習形式によって身につけさせる。	狩俣繁久

授業担当教員のうち、アンダーラインの教員は、研究指導教員です。

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
ことばと相互行為特論	2	コミュニケーション行動が織りなす人物像や社会像、文化像を琉球を含む様々な言語共同体を取り上げて比較分析する。会話の組織化、談話の構造、ことばの文化的意味、スピーチの文化コード、文化的認知プロセスなどを対人間のことばと社会的相互行為を精査することによって明らかにする。また、こうしたテーマについてディスカッションを重ね、ことばと社会的相互行為の文化独自性や普遍性について考察する。英文の資料を用い、ディスカッションの一部は英語で行う。	宮平勝行
ことばと相互行為演習	2	ことばと社会的相互行為の研究方法には主として語用論、会話分析、(批判的)談話分析、相互行為分析、ことばの民族誌などが挙げられる。いずれかひとつあるいは複数のアプローチに焦点を当て、一連の研究プロセスを実践を通して学ぶ。さらに、各研究方法の哲学的基盤や理論的背景、課題、最新の傾向などについて琉球を含む多様な言語文化を対象にした事例研究を読み解きながら理解を深める。この授業は受講生によるフィールドレポートを中心に演習形式で行う。	宮平勝行
アメリカマイノリティ文学特論	2	モダンからポストモダンの思潮の流れによって再構成されたアメリカ文学の批判体系によって再評価されるようになったいわゆる「マイノリティ」の作家や詩人のテキストについて研究する。書き手によって「マイノリティ」というアイデンティティを定義する要素は異なるが、この科目では人種、言語、文化、階級、性、そしてセクシュアリティなどの概念にもとづいて「マイノリティ」とみなされる書き手のテキストにはどのような特徴や意義あるのかについて考察し、こうしたテキストが従来の伝統的アメリカ文学観をどのように踏襲しつつ変容させたものであるかについて検討していく。	喜納育江
アメリカマイノリティ文学演習	2	アメリカ文学の中において「マイノリティ」であるという自己認識がどのような文学テキストを生んでいるのかという点を念頭に置きつつ、アメリカの女性文学、アメリカ先住民族文学、チカーノ(ナ)文学といったテキストにおいて、人種、言語、文化、階級、性、セクシュアリティといった要素が書き手の想像力と創造力にいかなる影響をもたらしているか、またアメリカ文学から発信されるそうした文学表現が、これからの世界観や人間像にどのような意味を付与していくのかについても考える。	喜納育江
沖縄民俗文化論特論	2	柳田国男や折口信夫以来の日本民俗学において、琉球・沖縄は特異な位置を占めてきた地域である。そのことをふまえ、日本民俗学の学史における沖縄の位置づけに留意しつつ、民間信仰や村落の祭祀組織、「家」あるいは門中組織などに関する諸問題を講義形式で学ばせる。特に久高島をめぐる諸問題を取り上げ、民俗事象に連動する歴史上の国家体制側の問題にも言及し、琉球・沖縄研究の他分野にまたがる論点や課題の所在にも注意を喚起したい。	赤嶺政信

授業担当教員のうち、アンダーラインの教員は、研究指導教員です。

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
沖縄民俗文化論演習	2	沖縄に関する民俗学分野の中から特定の論題を選び、そのテーマに関する先行研究の蓄積状況、あるいは研究の現段階や課題などについて、受講生による発表と討論形式の授業を行う。特に久高島をめぐる民俗学上の諸問題を取り上げ、担当教員の長年にわたる調査・研究の成果を示しつつ、琉球史や琉球文学等の他分野の研究にも連動する論点についても言及し、討論を行いたい。この授業を通じて、琉球・沖縄研究の一分野としての民俗学が果たす役割を考えたい。	赤嶺政信
アジア文化人類学特論	2	中国および東南アジア諸国を中心としたの文化人類学的研究。アジアの民族誌的研究を踏まえた文化人類学的方法論や研究動向について講義する。	稲村 務
アジア文化人類学演習	2	中国および東南アジアを中心とした文化人類学的研究について民族誌的研究や文化人類学的方法論について演習形式で学ばせる。	稲村 務
国際開発協力特論	2	発展途上地域における政治と経済の相互作用を、アジア太平洋地域諸国の発展戦略とそれに対する国際援助政策に焦点を当てて研究を深める。社会変動における政治と経済の相互作用、その地域社会への影響、それらを背景とする発展途上国における公共政策の分析を一方の軸とし、発展途上地域に対する先進諸国の政府・企業・NGOの協力政策（ODA、直接投資、開発協力など）の分析をもう一方の軸として、相互作用としての国際開発協力の全体像について、講義形式で理論を中心に扱う。この講義を通じて、沖縄・日本における国際協力の理論的、実践的貢献をなす教育となる。	星野英一
国際開発協力演習	2	発展途上地域における政治と経済の相互作用を、アジア太平洋地域諸国の発展戦略とそれに対する国際援助政策に焦点を当てて研究を深める。社会変動における政治と経済の相互作用、その地域社会への影響、それらを背景とする発展途上国における公共政策の分析を一方の軸とし、発展途上地域に対する先進諸国の政府・企業・NGOの協力政策（ODA、直接投資、開発協力など）の分析をもう一方の軸として、相互作用としての国際開発協力の全体像について、演習形式で事例研究を中心に扱う。この演習を通じて、沖縄・日本における国際協力の理論的、実践的貢献をなす教育となる。	星野英一
アジア物質交流史論特論	2	東アジアを中心とした物質交流史論に関する考古学研究の視点と方法を検討する。交流の考古学研究にあたっては、そのモノ自体の分析、すなわちモノの製作から使用、廃棄までの一連の流れの中で分析を行い、その時代性、地域性、背後にある人の活動、さらに交流による地域文化の変化を如何に読みとるかが問題である。琉球列島の歴史的展開の中でも、先史時代に遡って周辺地域との交流が重要な研究テーマとなっており、こうした東アジアにおける具体的な物質交流史を検討の対象とする。	後藤雅彦

授業担当教員のうち、アンダーラインの教員は、研究指導教員です。

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
アジア物質交流史論演習	2	交流の考古学研究にあたって、そのモノ自体の分析から時代性、地域性、背後にある人の活動、さらに交流による地域文化の変化を如何に読みとるかが問題である。そして、交流の場となった時代、地域は多様なものであり、アジアにおいても交流をテーマにした考古学研究は盛んである。そこで、演習形式を含め、多様な物質交流史の研究事例を検討しながら、交流のあり方に関する比較研究や方法論自体の検証を進め、物質交流史論の課題を検討する。	後藤雅彦
アジア国際関係史特論	2	第二次世界大戦以降の国際関係の歴史について、とくにアジア地域に焦点を当てながら分析する。アジアに関して、冷戦史の再検討がどの程度まで進んでいるか、アジアにおいて冷戦とは何であったか、アジアにおける冷戦の遺産とは何か、東アジア共同体の可能性と歴史認識問題についてなど、マクロ的視点から分析していく。現代の国際関係を理解することを通じて、沖縄・日本のこの地域での役割に関する知見が得られる。	金成浩
アジア国際関係史演習	2	アジア冷戦史における重要なトピックについて詳細な検討を加える。例えば、朝鮮戦争・日ソ国交回復・中ソ対立・沖縄返還・ソ連のアフガン侵攻・韓ソ国交回復などを取り上げ、その研究史、史料公開状況・研究手法・学説の対立についてなど解説しながら、国際関係史における研究手法を解説する。沖縄・日本周辺における個別的に紛争に関する理解を深めることにより、この地域の平和へ寄与できる人材を養成する。	金成浩
沖縄近現代文学特論	2	沖縄近現代文学に関する諸テーマに関して、歴史社会的背景と作品の構造と特質の関連とを検討する。	新城郁夫
沖縄近現代文学演習	2	沖縄近現代文学に関する諸テーマに関して、歴史社会的背景と作品の構造と特質との関連を理論的かつ実証的に考察する。	新城郁夫
環境思想特論	2	環境思想研究は、環境変化と社会、経済、政治、芸術の変動が相互に影響しあうという前提に成り立っている。本講義では主要なアメリカ環境思想を軸に、政治、宗教、哲学、文学的言説をとおして多面的に構成される環境思想研究の研究史的基礎を学びながら、実際に沖縄に生成する個別・具体的課題を環境思想的観点から応用分析し、環境思想的研究方法を習得する。	山城新

授業担当教員のうち、アンダーラインの教員は、研究指導教員です。

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
環境思想演習	2	本講義では、特にアメリカ環境思想を基礎づける理論的枠組みを学びつつ、実際に現代環境問題に関連づけながら、環境思想的課題と展望について考える。特に、第二次世界大戦以降のアメリカ覇権主義・帝国主義の関わりの中で形成される、アメリカ本土内外の事例、あるいは海域を介した環境問題などをおとして、環境問題の脱領域的側面を環境思想的に考える。	山城新
島嶼環境経済特論	2	環境経済学の理論を基礎として、島嶼地域における環境と経済の関係を考察する。沖縄や多くの太平洋島嶼国のような小島嶼においては、大陸や大規模島嶼との比較において自然環境と経済との関係が非常に強い。自家消費用の食糧の供給源として、また観光資源として、自然環境を保全する必要性が認識されている反面、政治的・経済的に脆弱であるため、外国資本による観光開発や他国への漁業権の売却などが外貨獲得手段として行われ、自国の自然や海洋資源の衰退という結果を招いている例もある。こうした独特の状況を踏まえながら、島嶼における環境調和型経済社会を実現するための方策について検討する。	藤田陽子
島嶼環境経済演習	2	沖縄をはじめとする小島嶼国・地域を事例として、環境と経済の関係に関わる諸課題の現状を学び、問題解決の方策について検討する。ケース・スタディに重点を置き、環境経済学の視点を基礎としながら、理論と実際との整合性と乖離について検証し、具体的な問題解決策を探求する。講義は受講生の発表を中心に進め、受講生同士の議論を通して物事を多角的に考察する視野を養う。	藤田陽子
島嶼空間システム特論	2	本特論では島嶼空間をシステム(系)として捉え、外部からの様々なインパクトに対してどのように島嶼空間が対応しているのかを、島嶼間システムと島嶼内システムの両面において、人口・交通流動、島嶼経済、島嶼社会そして島嶼振興の各事象に関して、沖縄・奄美・南洋群島などを事例に先例研究を理論的に検討する。	宮内久光
島嶼空間システム演習	2	本演習では島嶼空間をシステム(系)として捉え、外部からの様々なインパクトに対してどのように島嶼空間が対応しているのかを、島嶼間システムと島嶼内システムの両面において、人口・交通流動、島嶼経済、島嶼社会そして島嶼振興の各事象に関して、巡検や現地調査をもとに検討する。	宮内久光
比較地域文化特論 I	2	学外非常勤講師による講義で、通常の学期か、もしくは集中講義の形式で行うものである。講義の内容は、比較地域文化論に関わるという枠内で、担当する講師の専門とする研究分野等を考慮して、講師と専攻内の世話人との間の協議によって決めるものとする。	未定

授業担当教員のうち、アンダーラインの教員は、研究指導教員です。

授業科目名	単位数	講義等の内容	担当教員
比較地域文化特論Ⅱ	2	学外非常勤講師による講義で、通常の学期か、もしくは集中講義の形式で行うものである。講義の内容は、比較地域文化論に関わるという枠内で、担当する講師の専門とする研究分野等を考慮して、講師と専攻内の世話人との間の協議によって決めるものとする。	未定
比較地域文化特論Ⅲ	2	学外非常勤講師による講義で、通常の学期か、もしくは集中講義の形式で行うものである。講義の内容は、比較地域文化論に関わるという枠内で、担当する講師の専門とする研究分野等を考慮して、講師と専攻内の世話人との間の協議によって決めるものとする。	未定
比較地域文化特論Ⅳ	2	学外非常勤講師による講義で、通常の学期か、もしくは集中講義の形式で行うものである。講義の内容は、比較地域文化論に関わるという枠内で、担当する講師の専門とする研究分野等を考慮して、講師と専攻内の世話人との間の協議によって決めるものとする。	未定

*比較地域文化総合演習Ⅰ～Ⅳの担当教員は、主査・副査として論文指導にあたる教員です。
*年度ごとに開設される授業科目については時間割配当表を配布します。

APPLICATION FORM

JAPANESE GOVERNMENT (MEXT) SCHOLARSHIP FOR 2018

日本政府（文部科学省）奨学金留学生申請書

Research Students（研究留学生）

INSTRUCTIONS（記入上の注意）

1. Type application, if possible, or write neatly by hand in block letters. (明瞭に記入すること。)
 2. Use Arabic numerals. (数字は算用数字を用いること。)
 3. Write years in the Anno Domini system. (年号はすべて西暦とすること。)
 4. Write proper nouns in full without abbreviation. (固有名詞はすべて正式な名称とし、一切省略しないこと。)
- ※ Personal data entered in this application will only be used for scholarship selection purposes, and contact information such as email addresses will only be used to create academic networks after the student returns home and by the Japanese government to send out information when needed.

(本申請書に記載された個人情報については、本奨学金の選考のために使用するほかは、特に email アドレス等の連絡先については、帰国後における関係者のネットワークを作ること及び必要に応じ日本政府より各種情報を送信する以外には使用しない。)

1-1) Name in full, in your native language (姓名(自国語))

_____, _____, _____
(Family name/Surname) (Given name) (Middle name)

1-2) In Roman capital letters (ローマ字)

_____, _____, _____
(Family name/Surname) (Given name) (Middle name)

※Please write your name exactly as it appears in your passport. (綴りはパスポートの表記と同一にすること)

2-1) Nationality (国籍)

2-2) Possession of Japanese nationality (日本国籍を有する者)

Yes, I have (はい) No, I don't have (いいえ)

3) Sex (性別)

Male (男) Female (女)

4) Marital Status (配偶者の有無)

Single (未婚) Married (既婚)

5) Date of birth and Age as of April 1, 2018 (生年月日及び2018年4月1日現在の年齢)

19

Year (年)

Month (月)

Day (日)

Age (年齢) (as of April 1, 2018) (年齢 2018年4月1日現在)

6) Present address, telephone / facsimile number, and E-mail address (現住所及び電話番号、ファックス番号、E-mail アドレス)

Current address (現住所) : _____

Address at the time of leaving your country (渡日時の住所) : _____

Telephone/facsimile number (電話番号/FAX 番号) : _____

Email address: _____

* If possible, write an E-mail address that can be used continuously before, during and after you stay in Japan. (可能な限り、渡日前～日本留学中～帰国後にわたり使い続けることが予想される E-mail アドレスを記入すること。)

7) Field of specialization studied in the past (Be as detailed and specific as possible.)

(過去に専攻した専門分野(できるだけ具体的に詳細に書くこと。))

Paste your photograph or digital image taken within the past 6 months. Write your name and nationality in block letters on the back of the photo.

(photo size: 4.5cm×3.5cm)
(写真(4.5cm×3.5cm))

8) Academic background (学歴)

	Name and Address of School (学校名及び所在地)	Year and Month of Entrance and Completion (入学及び卒業年月)	Duration of Attendances (修学年数)	Diploma or Degree awarded, Major subject, Skipper years/levels (学位・資格、専攻科目、飛び級の状況)
Primary Education (初等教育) Elementary School (小学校)	Name (学校名) Location (所在地)	From (入学) To (卒業)	years (年) and months (月)	
Secondary Education (中等教育) Middle School (中学)	Name (学校名) Location (所在地)	From (入学) To (卒業)	years (年) and months (月)	
High School (高校)	Name (学校名) Location (所在地)	From (入学) To (卒業)	years (年) and months (月)	
Tertiary Education (高等教育) Undergraduate (大学)	Name (学校名) Location (所在地)	From (入学) To (卒業)	years (年) and months (月)	*-1
Graduate (大学院)	Name (学校名) Location (所在地)	From (入学) To (卒業)	years (年) and months (月)	
Total years of schooling mentioned above (以上を通算した全学校教育修学年数) As of April 1, 2018 (2018年4月1日現在)			_____ Years and _____ months (年) (月)	

- Notes: 1. Exclude kindergarten education and nursery school education. (幼稚園・保育所教育は含まれない。)
2. Preparatory education for university admission is included in secondary education. (いわゆる「大学予備教育」は中等教育に含まれる。)
3. If the applicant has passed the university entrance qualification examinations, indicate this in the column with “*-1.”(「大学入学資格試験」に合格している場合には、その旨*-1 欄に記入すること。)
4. Any school years or levels skipped should be indicated in the fourth column (Diploma or Degree Awarded, Major Subject, Skipped Years/Levels). (Example: Graduated high school in 2 years.) (いわゆる「飛び級」をしている場合には、その旨を該当する教育課程の「学位・資格・専攻科目・飛び級の状況」欄に記入すること。(例)高校3年次を飛び級により短期卒業)
5. If you attended multiple schools at the same level of education due to moving house or readmission to university, then write the schools in the same column and include the number of years of study and current status for each school. (住居の移転や大学の再入学等を理由に、同教育課程で複数の学校に在籍していた場合は、同じ欄に複数の学校の在籍を記載し、すべての修学状況を修学年数に含めること。)
6. Calculate and write the total number of years studied based on duration as a student. (including extended leave such as summer vacation)(修学年数合計は在籍期間を算出し、記入すること。(長期休暇も含める))
7. You may use a separate piece of paper if the above space is insufficient. In such a case, please stipulate that the information is on a separate page. (上記に書ききれない場合は、別紙に記入することも可能。しかしその場合は、別紙に記入する旨を上記学歴欄に明記すること。)

9) If you are applying for other scholarships, please state the name of the sponsor, scholarship period, scholarship amount, etc.

(もし他の奨学金に応募している場合は、その名前、期間、金額等を記すこと。)

10) Past awarded record (過去の国費奨学金受給歴)

Have you been awarded a Japanese Government (MEXT) Scholarship in the past? Please check i) or ii) below. If so, please specify the period, the name of the university, etc. (過去に国費外国人留学生に採用されたことがあるか。下記の該当するものにチェックを付けること。あるならば、その期間・受入大学名等を記入のこと。)

i) Yes, I have. (ある)

Period: _____ Type: _____ University: _____

ii) No, I have not. (ない)

11-1) Have you ever written a papers (including graduation theses)? (過去に論文(卒業論文を含む。)を作成したことがあるか)

Yes, I have. (ある) No, I have not. (ない)

11-2) State the titles or subjects of books and papers (including graduation theses) authored by applicant, if any, with the name, address of publisher and the date of publication. (著書、論文(卒業論文を含む。)があればその題名、出版社名、出版年月日、出版場所を記入すること。)

12-1) Currently have a job? (現職の有無)

Yes, I have (はい) No, I don't have (いいえ)

12-2) If you have a job, please fill in employer's name (もし現職がある場合は勤務先名を記入すること。)

12-3) Employment record: Begin with the most recent employment and exclude part-time work. (職歴: アルバイトは除く。)

Name and location of organization (勤務先及び所在地)	Period of employment (勤務期間)	Position (役職名)	Type of work (職務内容)
	From To		
	From To		

13-1) Japanese language proficiency: Evaluate your ability and fill in with an X where appropriate in the blanks.

(日本語能力を自己評価のうえ、該当欄に×印を記入すること。)

	Excellent (優)	Good (良)	Fair (可)	Poor (不可)
Reading (読む能力)				
Writing (書く能力)				
Speaking (話す能力)				
Listening (聴く能力)				

※If you have taken the Japanese Language Proficiency Test, specify the level you acquired. [] Level

(日本語能力試験の級取得者は取得級を記載)

13-2) Foreign language proficiency: Evaluate your ability and fill in with an X where appropriate in the blanks.

(外国語能力を自己評価のうえ、該当欄に×印を記入すること。)

	Excellent (優)	Good (良)	Fair (可)	Poor (不可)
English (英語)				
French (仏語)				
German (独語)				
Spanish (西語)				
Others (その他)				

※Specify the test results for any English proficiency examinations you may have taken. TOEFL[]points IELTS[]points PTE Academic[]points Others() []points (英語能力を示す指標があれば点数を記載)

14) Accompanying Dependents (Provide the following information if you plan to bring any family members to Japan.)

同伴家族欄 (渡日する場合、同伴予定の家族がいる場合に記入すること。)

All expenses incurred by the presence of dependents must be borne by the grantee. He/She is advised to take into consideration the various difficulties and great expense that will be involved in finding living quarters for them. Therefore, those who want to accompany their families are well advised to come alone first and let them come after suitable accommodation has been found.

(注) なお、同伴者に必要な経費はすべて採用者の負担であるが、家族用の宿舎を見つけることは相当困難であり賃貸料も非常に割高になるのであらかじめ承知しておくこと。このため、採用者はまず単身で来日し、適当な宿舎を見つけた後、家族を呼び寄せること。

Name (氏名)	Relationship (続柄)	Age (年齢)

15) Person to be notified in applicant's home country in case of emergency:

(緊急の際の母国の連絡先)

i) Name in full:

(氏名) _____

ii) Address, telephone/facsimile number, and E-mail address

(住所:電話番号、ファックス番号及びE-mail アドレスを記入のこと。)

Present address(現住所)

Telephone/facsimile number(電話番号/FAX 番号)

E-mail address

iii) Occupation:

(職業) _____

iv) Relationship to applicant:

(本人との関係) _____

16) Visits or stays in Japan List from your most recent visits. (日本への渡航及び滞在記録)

Date (年月日)	Purpose (渡航目的)
From To	
From To	

(I understand and accept all the matters stated in the Application Guidelines for Japanese Government (MONBUKAGAKUSHO:MEXT) Scholarship for 2018, and hereby apply for this scholarship.)

(私は 2018 年度日本政府(文部科学省)奨学金留学生募集要項に記載されている事項をすべて了解して申請します。)

Date of application:

(申請年月日)

Applicant's signature:

(申請者署名)

Applicant's name

(in Roman capitals letters):

(申請者氏名)

(別紙)

専攻分野及び研究計画

Field of Study and Study Program

Full name in native language _____,
(姓名 (自国語)) (Family name) (First name) (Middle name)

Nationality _____
(国 籍)

Proposed study program in Japan (State the outline of your major field of study on this side and the details of your study program on the backside of this sheet in concreteness. This section will be used as one of the most important references for selection. Statement must be typewritten or written in block letters. Additional sheets of paper may be attached if necessary.)

(日本での研究計画；この研究計画は、選考の重要な参考となるので、表面に専攻分野の概要を、裏面に研究計画の詳細を具体的に記入すること。)
(記入はタイプ又は楷書によるものとし、必要な場合は別紙を追加してもよい。)

If you have Japanese language ability, write in Japanese.

(相当の日本語能力を有する者は、日本語により記入すること。)

1 Field of study (専攻分野)

2 Study program in Japan in detail and concreteness (研究計画：詳細かつ具体的に記入すること。)

2018年度琉球大学大学院人文社会科学 研究科比較地域文化専攻（博士後期課程）
国費外国人留学生（研究留学生）の優先配置を行う特別プログラム
「国際的沖縄研究者養成プログラム」出願理由書

氏名 _____

(1) 予定している研究課題名

(2) 志願の動機

(3) 入学後の研究の概要（具体的に記入すること。）

①研究内容とその目的・意義

②研究方法, 研究計画（具体的な計画）は, 『入学申請書』のとおり

(4) 修了後の研究やキャリアの中長期的な展望

(5) 主な業績： 『研究業績報告書』 のとおり

健康診断書

CERTIFICATE OF HEALTH (to be completed by the examining physician)

日本語又は英語により明瞭に記載すること。
Please fill out (PRINT/TYPE) in Japanese or English.

氏名 Name: _____, _____, _____
Family name, First name Middle name
男 Male 生年月日 Date of Birth: _____
女 Female

1. 身体検査 Physical Examination

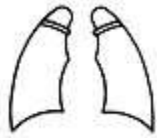
(1) 身長 _____ cm 体重 _____ kg
Height Weight

(2) 血圧 _____ mm/Hg ~ _____ mm/Hg 血液型 Blood Type
Blood pressure
A B O RH +
- 脈拍 整 Regular
不整 Irregular
Pulse

(3) 視力 Eyesight: (R) _____ (L) _____ (R) _____ (L) _____
裸眼 Without glasses 矯正 With glasses or contact lenses
色覚異常の有無 正常 Normal
異常 Impaired
Color blindness

(4) 聴力 正常 Normal 言語 正常 Normal
Hearing: 低下 Impaired Speech: 異常 Impaired

2. 申請者の胸部について、聴診とX線検査の結果を記入してください。X線検査の日付も記入すること（6ヶ月以上前の検査は無効。） Please describe the results of physical and X-ray examinations of the applicant's chest X-rays (X-rays taken more than six months prior to the certification are NOT valid).



肺 正常 Normal
Lungs: 異常 Impaired

心臓 正常 Normal
Cardiomegaly: 異常 Impaired

← Date _____
Film No. _____

異常がある場合
心電図 Electrocardiograph: 正常 Normal
異常 Impaired

Describe the condition of applicant's lungs.

3. 現在治療中の病気 Yes (Disease _____)
Disease currently being treated No

4. 既往症
Past history : Please indicate with + or - and fill in the date of recovery
(If the applicant has not contracted any of the disease, please check "None".) (いずれも該当しない場合は、なしにチェックすること。)

Tuberculosis..... (. . .) Malaria..... (. . .) Other communicable disease..... (. . .)
Epilepsy..... (. . .) Kidney disease..... (. . .) Heart disease..... (. . .)
Diabetes..... (. . .) Drug allergy..... (. . .) Psychosis..... (. . .)
Functional disorder in extremities..... (. . .)

None.....

5. 検査 Laboratory tests
検尿 Urinalysis: glucose (), protein (), occult blood ()

赤沈 ESR: _____ mm/Hr, WBC count: _____ /cmm 貧血 anemia

Hemoglobin: _____ gm/dl, GPT: _____

6. 診断医の印象を述べて下さい。(問題がない場合も、その旨ご記入ください。)
Please give your impression of the applicant's health. (If you do not have a particular opinion, please write as such.)

7. 志願者の既往歴、診察・検査の結果から判断して、現在の健康の状況は十分に留学に耐えうるものと思われますか？
In view of the applicant's history and the above findings, is it your observation that his/her health status is adequate to pursue studies in Japan?

Yes No

日付 Date: _____ 署名 Signature: _____

医師氏名 Physician's Name in Print: _____

検査施設名 Office/Institution: _____
所在地 Address: _____

研究業績報告書 (博士後期課程)

氏 名		著書名, 論文名およびその概要を以下にまとめること。			
著書, 論文等の名称	単著, 共著の別	発行または発表の 年月	発行所, 発表雑誌等または発表学会等の名称		概 要

著書，論文等の名称		単著， 共著の別	発行また は発表の 年月	発行所，発表雑 誌等または発表 学会等の名称		概 要

琉球大学大学院人文社会科学研究所

日本語力調査書（博士後期課程）

志願者氏名 _____ 生年月日(西暦) _____ 年 _____ 月 _____ 日

志願者住所 _____

志願者の母国語 _____

*該当する事項の番号を○印で囲む。

I 聴 解 力

1. 理解できない。
2. ゆっくりはっきり話せば理解できる。
3. まあまあ理解できる。
4. じゅうぶん理解できる。

II 会 話 力

1. 少しも話せない。
2. 意志の伝達はできる。
3. ある程度話せる。
4. すらすら話せる。

III 読 解 力

1. 全く理解できない。
2. やや理解できる。
3. おおよそ理解できる。
4. じゅうぶん理解できる。

IV 作 文

1. 全く書けない。
2. やさしい文章は書ける。
3. まとまった文章が書ける。
4. 論理的な文章が書ける。

V 所見（大学の講義をうける能力等，総合的な評価）

以上のおおりに調査報告します。

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

調査者勤務先 _____

調査者職名 _____

調査者氏名（自署） _____ 印

注 この調査書は、高等学校または大学において日本語を教授している者、政府または公共団体の責任ある職員にあって日本語を十分理解できる者、若しくは各国在日本大使館員職員によるものでなければなりません。